

2011年6月24日

増税論について
～B型肝炎患者への被害回復を増税の理由にしないで下さい～

全国B型肝炎訴訟 原告団代表 谷口三枝子

B型肝炎訴訟の基本合意まであと一步のところまで来ました。提訴から3年、和解勧告からも1年以上たって、ようやくたどり着こうとしています。

この3年間、私たち原告は、街頭でビラ配りを続けてきました。最初は受け取りがよくありませんでしたが、だんだん理解してもらえるようになって、「がんばって下さいね。応援しています。」と声をかけてもらえるようになりました。

しかし、昨年春、和解協議の中で、莫大な予算がかかるという報道が何度も続きました。私たち原告は、まるで私たちが国民の皆さんのお荷物のように、いたたまれない気持ちになりました。私たちは被害者なのに、国民の皆さんに迷惑をかけているかのような報道のされ方に傷つき、悲しく、憤りも覚えました。

そして、今また、基本合意目前のこの時期になって、今後5年間に1.1兆円が必要だから増税が必要だという報道が再びなされています。信じられない思いです。

国は本当に私たちに謝罪する気持ちがあるのでしょうか。

B型肝炎患者は、感染症患者と言うだけで、さまざまな差別偏見にさらされてきました。必要以上に感染をおそれた過剰な対応で傷つけられることもありました。

私は、今でこそ、こうして名前や顔を公にしていますが、最初は差別や偏見をおそれて、匿名でこの裁判に参加しました。そして今もほとんどの原告はなお職場や友人による差別や偏見をおそれて匿名のまま裁判をすすめざるを得ない状況です。しかし、私たち原告の思いは共通です。「私たちは、予防接種の回し打ちという、国の過ちの被害者なのだ。私たちは悪くない。」「私たちはB型肝炎患者だ。」と、胸を張っていえる社会になってほしいのです。そして、被害をもたらした国には、B型肝炎患者に差別偏見のない社会を作ることを手伝って欲しいのです。

国が、私たち原告の被害救済と増税とを同時に口にするのは、私たち原告に対する国民の皆さんの偏見、B型肝炎患者は国民にとって増税の原因になる迷惑な人たちなのだ、という偏見を新しく作り出すことではないでしょうか。

政府が今、ようやく責任を認め、謝罪をしようと言うときに、私たちのせいで増税が必要になると言うことは、とても許せません。

私たちを、増税の口実にしないで下さい。

基本合意の日に、全国から集まった原告を悲しませるような心ないことはしないで下さい。ようやくたどりついた基本合意と謝罪を私たち原告が心から喜んで受け止められる日にして下さい。

私たちは、被害者です。ようやく胸を張ってB型肝炎患者ですと言えるはずの日に、増税論を蒸し返すのはやめて下さい。本当にお願ひいたします。